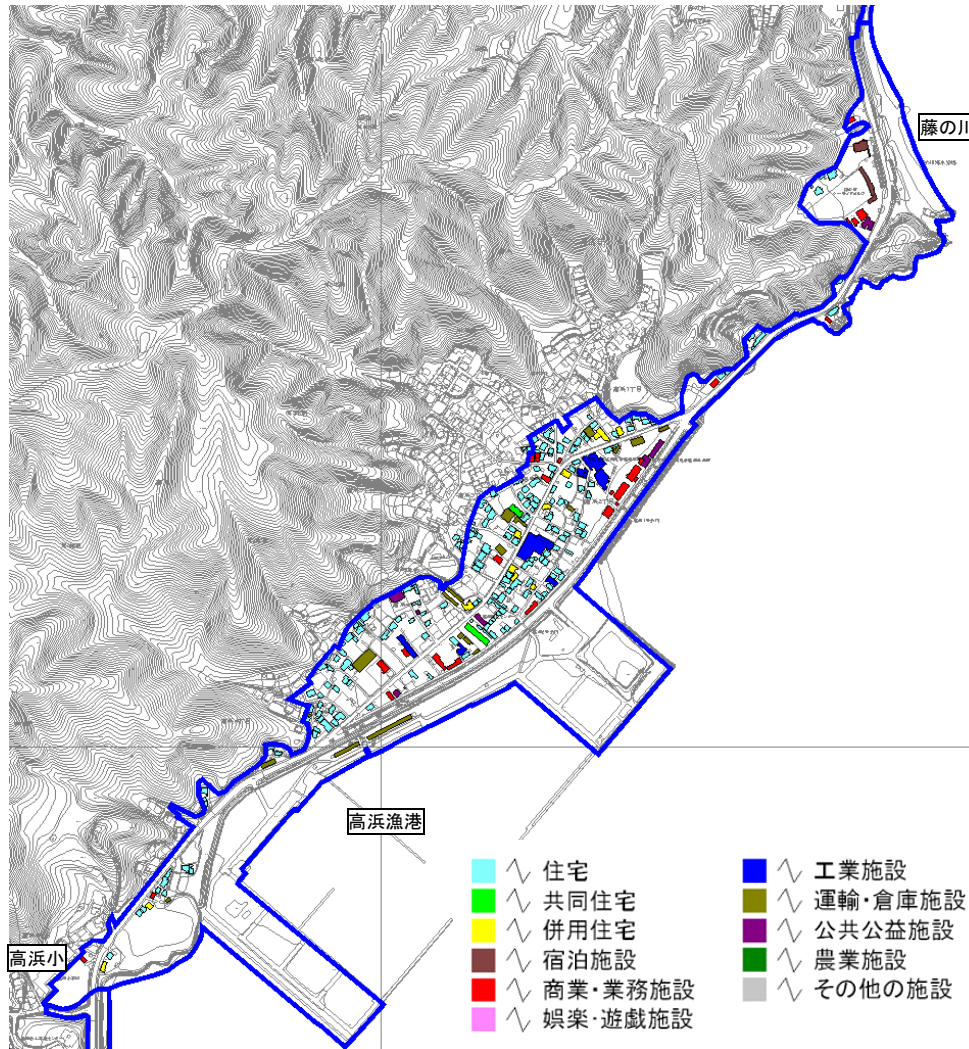


●基盤整備の概要

- ・海岸に沿って宮古市中心部と山田町方面を結ぶ国道 45 号が通っています。
- ・海岸沿いの低地に住宅地が形成されています。
- ・高浜漁港が整備されています。

●震災前の建物用途の状況



●宮古市東日本大震災復興計画基本計画(案)

第5 地域別復興まちづくりの方向性

宮古地域

- ・防潮堤の新たな整備と必要に応じ嵩上げを促進するとともに、背後地の高台を活用するなど、安全で安心して暮らすことのできる住宅地の整備を進めます。
- ・魚市場、漁港、港湾や観光施設などの産業関連基盤については、施設の復旧に向け、計画的、段階的な事業展開により、着実な復興に取り組みます。
- ・防潮堤の外部や防潮堤を設置しない地域における避難体制の強化・確保に向け、避難タワーや避難ビルの設置を検討します。また、避難路、避難場所については、高齢者や障がい者に配慮し、誰もが容易に避難することができるよう、その整備の見直しや避難道路網の複線化を進めます。

●宮古市都市計画マスタープラン(H15.3)地域別構想「河南地区」

キャッチフレーズ：河南ポートエリア

◆地域の特徴

当地域は閉伊川の南に位置し

- ① 小山田周辺は、公共施設や大型店が集約し賑わいをみせている反面、工場跡地が遊休地となっています。
- ② 藤原地区は、水産加工業と住宅が混在しています。
- ③ 藤原埠頭は、工業地（物流基地）と位置づけられています。
- ④ 磯鶏地区は、住宅地の中に木材関連の工場が集約し、宮古短期大学や文化会館など文教施設が立地しています。
- ⑤ 高浜～金浜地区は、浅海養殖を主体とした漁業が営まれています。
- ⑥ 海岸線にはマリーナが立地し、海水浴場も残されています。

◆地域の課題

- ① 小山田地区は、工場跡地の活用が望まれています。
- ② 藤原地区は、港湾の背後地としての利活用及び既存の水産加工業と住宅地との調和が図られた環境整備が必要です。
- ③ 藤原港湾は、物流拠点基地と位置づけられており、港湾利用型企業の誘致を図る必要があります。
- ④ 磯鶏地区は、マリーナと木材港の活用が望まれています。
- ⑤ 高浜～金浜地区は高速交通網の出入口としての利点を生かした土地利用を図る必要があります。

◆地域の将来像

- ① 小山田周辺は、アミューズメント系施設や公共施設が集約され、市民の交流が広がります。
- ② 宮古港藤原埠頭は岩手の海の玄関口として、海から文化や富をもたらす物流の拠点として工業が振興し、背後には居住区としての街並みが形成されます。

◆まちづくりの方向 【土地利用】

- ① 遊休地にアミューズメント系施設や公共施設の誘導が図られる土地利用を検討します。
- ② 宮古盛岡横断道路の整備により、藤原埠頭用地を物流基地として機能増進が図られるよう誘導します。
- ③ 八木沢一帯は、良好な住環境を有した住宅地並びに文教地区として誘導します。

●都市計画図

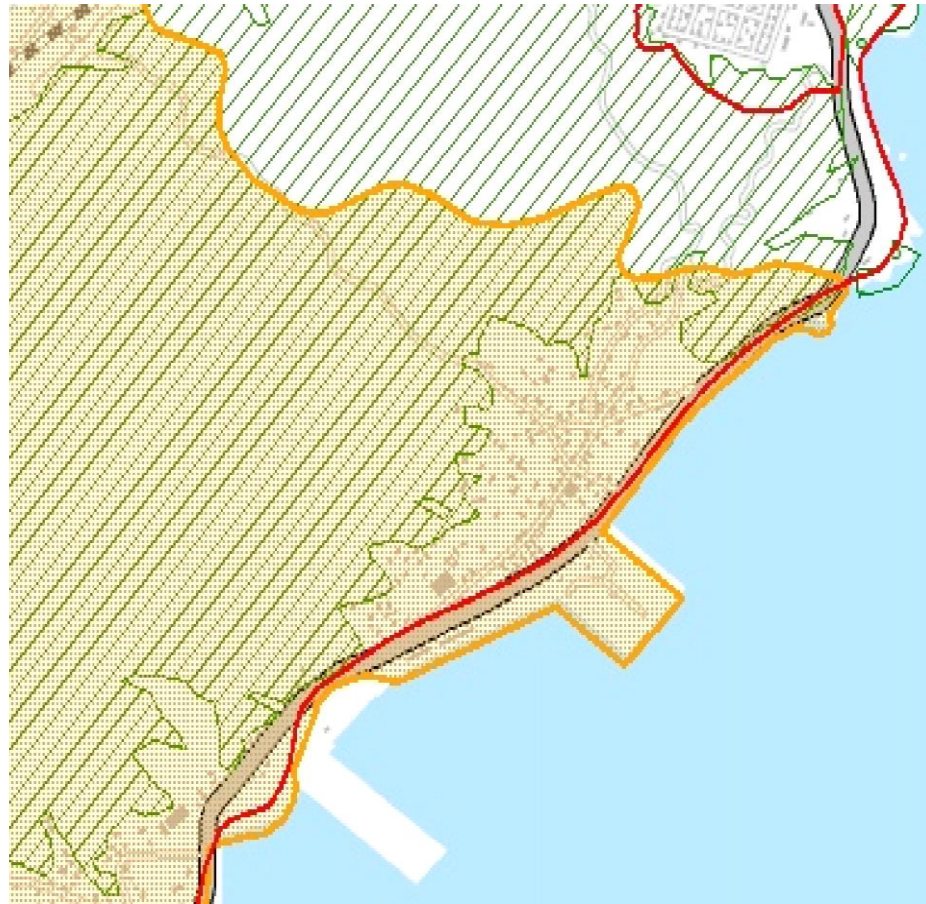


凡	例	容積率 (%)	高さ (m)	建築物の敷地面積 (㎡)	建築物の延べ面積 (㎡)
	第一種低層住居専用地域	80	40	1.0	10.0
	第二種低層住居専用地域	100	60	—	10.0
	第一種中高層住居専用地域	80	40	—	10.0
	第二種中高層住居専用地域	200	60	—	—
	第一種住居地域	200	60	—	—
	第二種住居地域	200	60	—	—
	近隣商業地域	200	80	—	—
	商業地域	400	80	—	—
	準工業地域	200	60	—	—
	工業専用地域	200	60	—	—

防火地域	公園	都市計画街路	区画整理区域	臨港地区	宅地造成工事規制区域	第1種 (H) (建ぺい率) (延床積) (床積)	第2種 (H) (建ぺい率) (延床積) (床積)	第3種 (H) (建ぺい率) (延床積) (床積)	第4種 (H) (建ぺい率) (延床積) (床積)
						8 2 / 10 3 1.5	12 3 / 10 2 1	15 4 / 10 2 1	

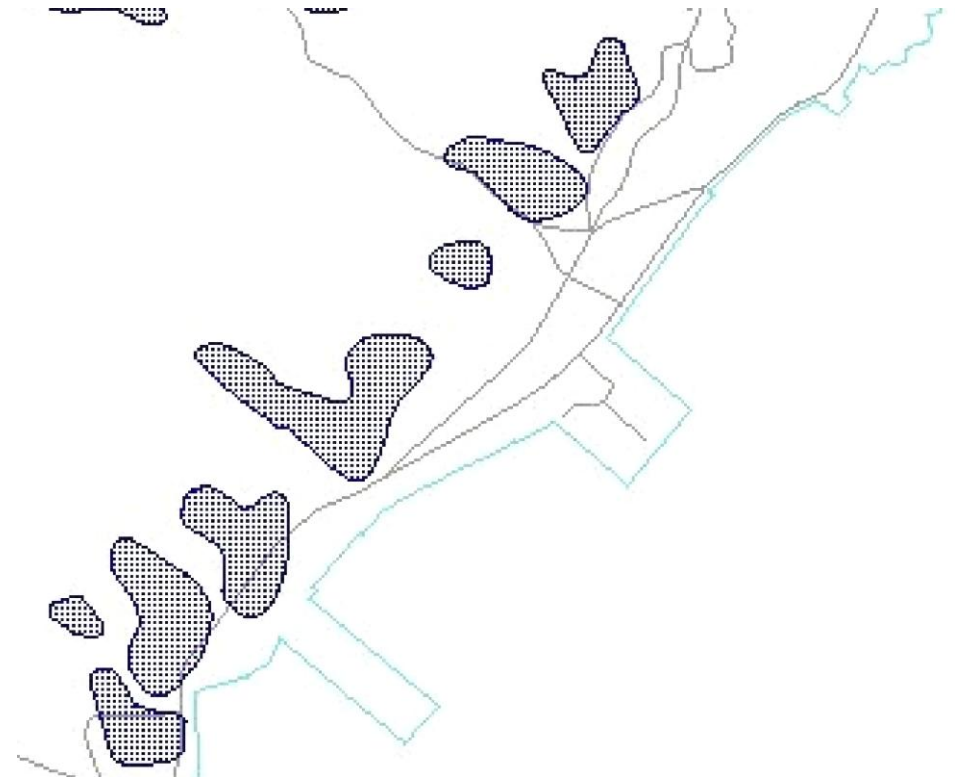
上段 容積率 (建築物の延べ面積の敷地面積に対する割合) (%)
下段 高さ (建築物の最上階の敷地面積に対する割合) (%)

■国土利用計画



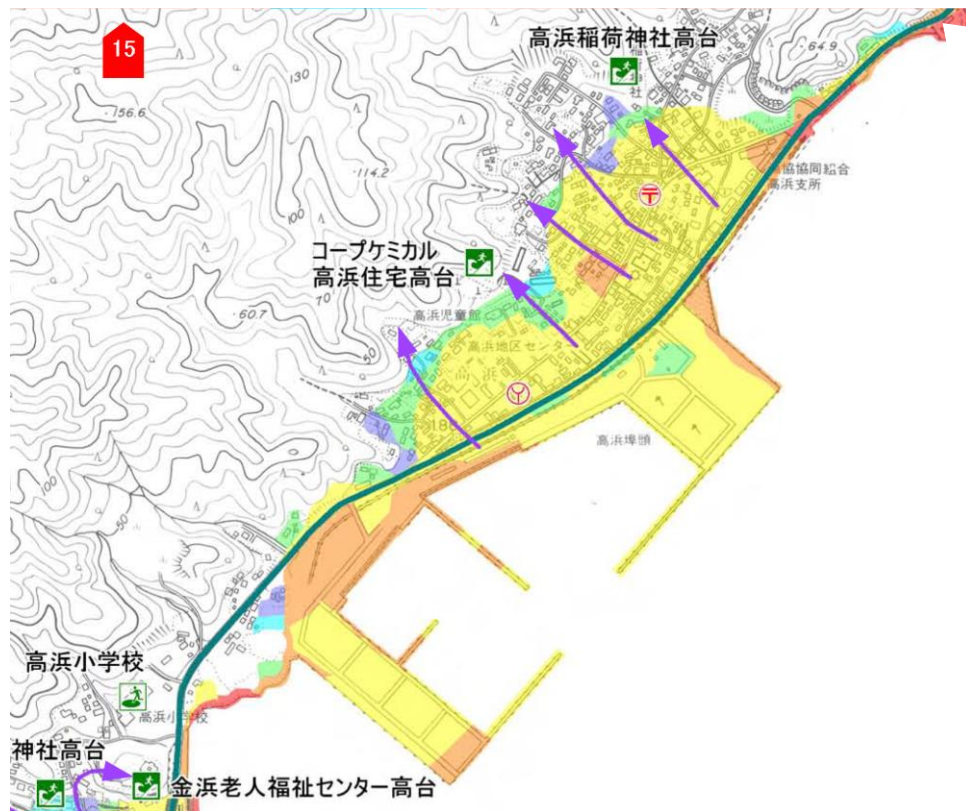
- 都市地域
- 農業地域
- ▨ 地域森林計画対象民有林

■埋蔵文化財等の状況（いわてデジタルマップより）



- ▨ 埋蔵文化財包蔵地

■避難場所、避難ルート状況（宮古市ハザードマップより）



■危険区域の状況（宮古市ハザードマップより）



避難場所・避難所		津波浸水深さ	
	避難場所（高台）	 0.5m未満	 2.0～4.0m
	避難所	 0.5～1.0m	 4.0～6.0m
	避難ルート	 1.0～2.0m	 6.0m以上

避難所	洪水浸水深さ	土砂災害危険箇所
 避難所	 1.0～2.0m	 急傾斜危険箇所（がけくずれ）
 0.5m未満	 2.0～5.0m	 土石流危険渓流
 0.5～1.0m	 5.0m以上	

■震災による被害状況

